

令和元年9月4日現在

機関番号：82667

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02104

研究課題名（和文）日仏文化政策と市民との関係を踏まえた持続可能な観光プログラムに関する研究

研究課題名（英文）Research on sustainable tourism programme taking account of the cultural policy of Japan and France

研究代表者

松本 慎二（Matsumoto, Shinji）

公益財団法人学習情報研究センター・その他部局等・研究員

研究者番号：50454195

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：「都市化と文化財の保存」政策の日仏比較基礎データベースの構築。日本に関係の深いフランス人銀行家アルベール・カーンの生涯に関する調査研究と、フランス政府により文化財に指定された同氏邸宅跡のアルベール・カーン資料館の資料紹介。膨大な静止画資料と数万フィートに及ぶ動画フィルムはカーンが生前に着手した地球文書館計画の成果であり、人物写真には渋沢秀雄、大隈重信、新渡戸稲造、姉崎正治などが含まれている。文化遺産の保全と都市化に直面する行政の関係については市街地中心部に登録世界遺産を有するストラスブール、リヨン、ボルドーなどの地方大都市の担当者から聞き取り調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「アルベール・カーン」（1860～1940）に関する学問的研究は日本内外を問わずほとんどなされていない。フランス北東部、アルザスに生まれた彼はパリに赴き、刻苦勉励して銀行家となり、大きな成功を収めた。日清、日露戦役にあたっては日本政府発行の戦時国債を請負い、日本の戦勝に貢献した。銀行家として成功した後、地球文書館計画と世界周遊奨学金計画を実施、全世界に写真家を派遣し、各国の優秀な学徒に世界周遊の機会を与えた。カーン訪日の際は礼砲を持って歓迎された。文化遺産の保存政策を都市化を調和させるかは21世紀の深刻な問題であり、解決のための基礎資料をデータベースがすべく、日仏地方大都市の例を調査している。

研究成果の概要（英文）：Construction of Japan-France comparative database on the conservation of cultural properties and urbanization. Life and work of Albert Kahn, French banker, who supported the modernization of Japan. Introduction of Albert Kahn Museum and its garden, officially approved as National Cultural Property in 2017. Its collection includes several thousands of still photographs and several thousands meters of film production. They are the result of his world-wide programme of "World Archives Programme". We can find a lot of photographs of world-widely known politicians, artists, etc. Concerning "the conservation of cultural property and urbanization", interview meetings and inquiries were implemented to specialists of local governments such as Strasbourg, Lyon, Bordeaux, etc.

研究分野：図書館情報学、デジタルアーカイブズ、世界遺産学

キーワード：観光学 世界遺産学 都市化と文化財保存政策 デジタルアーカイブズ

### 1. 研究開始当初の背景

フランスの文化遺産政策が市民の生活や活動に深くかかわっている実態を明らかにした先行研究を踏まえ、日本の近代化に預かって力あったユダヤ系銀行家アルベール・カーン（1860～1940）の生涯と彼の業績をたどることが最終的に本研究の第一の主題となった。オー・ドゥ・セーヌ県ブローニュ・ビヤンクール市の旧邸宅は、2016年、フランス政府により国の文化財に指定され、これにともなって邸内日本庭園にある和室が修復され、新資料館が隈研吾氏の設計で建築されることになり、本研究も時宜を得た科研費事業となった。またこれに先立つ科研費事業の主題であった「日仏文化行政比較」を補完する国と地方の文化政策についても本研究第二の主題として考察した

### 2. 研究の目的

世界遺産に関する価値概念の変化、管理に関わる新しい要請、対象の変化という3つの動態をフランスにおける実地調査によって明らかにする。またユネスコが提唱する「世界遺産と持続可能な観光プログラム」を日仏両国において検討するとともに「文化遺産とコミュニティの関係」をアーカイブ化して蓄積する。

### 3. 研究の方法

先進国における文化財保存政策の現在の問題点が「都市化と文化財保存」であることに鑑み、フランスの比較的人口の多い地方都市を実地調査し、県、市などの文化政策担当者に面接、アンケート調査を行なった。次いでアルベール・カーン資料館および庭園がフランス文化財に指定されたことを紹介し、無名の銀行家カーンが我が国近代化に深く関わっていたことを調査研究の上明らかにする。アルベール・カーン資料館の担当者とは定期的に会合を持ち、必要資料を精査した。

### 4. 研究成果

研究成果の具体例の一つには、アルベール・カーン資料館で撮った写真（図1参照）をすぐにモバイル実物投影セットでパソコンに転送し、実地調査のしやすさと野外アクティブ・ラーニングのしやすさを評価する研究がある。



図1 アルベール・カーン資料館の庭園の撮影

カメラをモバイル実物投影セットの受信機に近づけるだけで最新の画像だけを取り込んでくれる（図2参照）

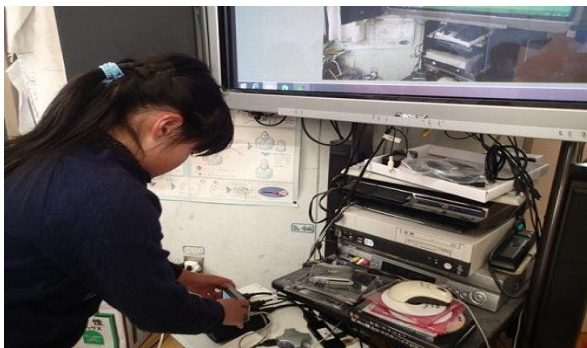


図2 モバイル実物投影セットによる写真取り込み

アルベール・カーン資料館のような屋外での研究調査には、「見せやすさ」「理解やすさ」「共有しやすさ」「拡大表示性」の4つ評価観点で優れているものが求められる。

図3の通り、評価者19名によるAHP評価では、モバイル実物投影セットは、タブレット端末単体と比較しても、理解しやすく、また観察者が見せやすいと判明した。

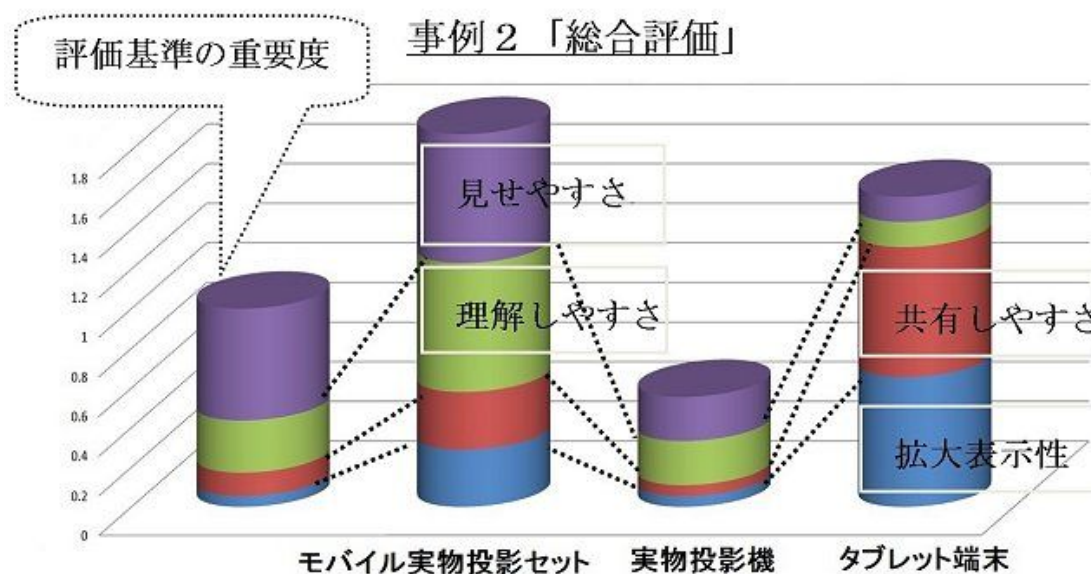


図3 総合評価結果

本 AHP 評価では、モバイル実物投影セットが実物投影機やタブレット端末よりも、理解しやすく、また観察者達がノートを見せ易いと判明した。タブレット端末は拡大表示性と共有しやすさで優れており、モバイル実物投影セットの PC として利用すると強力な野外アクティブ・ラーニング・ツールになると分った。

モバイル実物投影セットは、どの学校にもあるデジタルカメラと PC が活用でき、安価(5万円未満)なので、子ども達が、お互い野外の観察ノートや授業ノートを見せあうといったアクティブ・ラーニングでも今後活用されるようになって考えられる。

研究の詳細は、研究代表者、研究協力者各自の雑誌論文、学会発表を参照されたい。図書のうち、松本慎二・朝田健治【アルペール・カーンの生涯】は動画を編集した書籍である。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

松本慎二【アルペール・カーン】(日仏図書館情報研究、42号、2017)

澤井進【野外アクティブ・ラーニングを実現させるモバイル実物投影セット】(学習情報研究論文集、2017)

Sawai Susumu “Active Learning Outdoor, the Classroom using...” (EDMEDIA, vol.258, 2017, 446-454)

内海麻利【「管理型」都市計画の行為と手法 ミクロ管理の担い手に着目してー】(土地総合研究、26巻2号、2018、12-24)

内海麻利【空間制御における合意形成】(地域社会の合意形成、金井利之編著、1巻、2019、138~157)

澤井進【「ホモ・デウス」と深い学び】(学習情報研究論文集、208号、2018、50-51)

〔学会発表〕(計3件)

松本慎二【アルペール・カーンの生涯】(日仏図書館情報学会、招待講演、2017.12.08)

内海麻利【社会システムとしての都市計画と土地利用】(都市計画学会招待講演、2018)

澤井進【AI時代の教育学会の必要性】(メディア教育研究会、2018)

〔図書〕(計1件)

松本慎二・朝田健治【アルペール・カーンの生涯】(学習情報研究センター、2018、300p)

〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### 研究分担者

研究分担者氏名：朝田健治

ローマ字氏名：Asada, Kenji

所属研究機関名：サイバー大学

部局名：IT 総合学部

職名：客員教授

研究者番号 00465460

研究分担者氏名：内海麻利

ローマ字氏名：Uchiumi, Mari

所属研究機関名：駒澤大学法学部

職名：教授

研究者番号 60365533

研究分担者氏名：澤井進

ローマ字氏名：Sawai, Susumu

所属研究機関名：学習情報研究センター

職名：理事

研究者番号 60462933